

2025年度の業績

事業の概況について

中期経営計画である「未来を拓く変革への挑戦」3か年計画の2年目として計画を遂行し、エリア内の少子高齢化等による人口や企業数の減少、世界情勢の不安定化、極端な物価高など厳しい環境下ではありましたが、各種施策にそれぞれが注力し計画を遂行することで収益確保に努めました。また、地域金融機関として地元企業に対し、地域の経済が停滞しないよう伴走型の本業支援に努め、当金庫が従来から取組んできた「地域活性化のための地域貢献事業」等により、地域企業の経営力強化や成長の促進、再チャレンジの機会創出や創業支援の強化、地域企業の悩みや課題解決に向けた専門家派遣等により経営改善を支援していくことで営業基盤の強化に努めました。中期経営計画のスローガンである「S(サポート)、C(コミュニティ)、C(チャレンジ)～常にお客さま・地域を支え、地域の中で一番の地域金融機関として、新しい未来へ繋がるために挑戦する～」と、行動方針である「S(スピード)、S(スマイル)、P(プラスワン)～すべてにおいて迅速な対応を行い、いつも笑顔で「おもてなし」の気持ちを持ち、常に一歩先・二歩先の対応を行う～」を更に定着させ、徹底した本業支援、地域支援等により、地域社会に期待され、信頼される信用金庫を目指し、お客さまの幸せづくりと地域全体の成長に貢献することに取り組みました。

2025年度決算概要

①主要損益概況

収益面においては、貸出金が平残ベースで2,120百万円増加したことに加え政策金利の引上げ等もあり、貸出金利息は104百万円の増加、預け金利息は128百万円の増加、有価証券利息配当金は121百万円の増加となり、資金運用収益は356百万円の増益となりました。資金調達費用においては、金利上昇に伴い預金利息が176百万円の増加となっており、費用面につきましては、人件費の見直し、およびシステム更改や設備の営繕、物価高騰もあったものの、経費全体で10百万円の増加に留めたことで、コア業務純益は対前期比166百万円増益の628百万円となりましたが、金利上昇による債券ロスカットが226百万円増加したこと等により、当期純利益は対前期比37百万円増益の263百万円となりました。

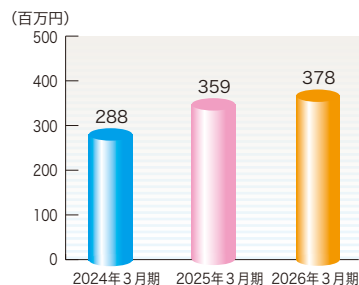
②預貸金の状況

2026年3月期決算において資産の主要勘定である貸出金は、緩やかな景気回復による資金需要や個人消費の増加等により平残ベースで対前期比2,120百万円増加の64,307百万円となりました。一方、負債の主要勘定である預金積金は、キャンペーン実施により定期預金は増加したものの、要払性預金や定期積金の減少等により、平残ベースで427百万円減少の161,146百万円となり、総資産においても、平残ベースで548百万円減少の174,926百万円となりました。

■ 収益の推移

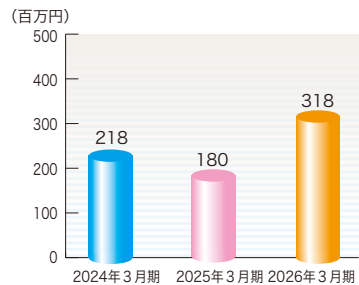
業務純益

一般企業の営業利益に相当するもので、本来の業務によって得られた利益のことです。



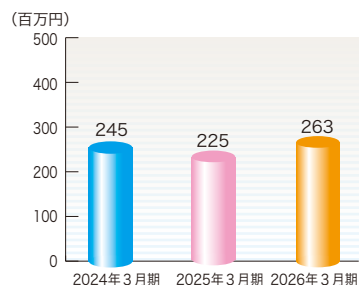
経常利益

業務純益に株式の売却損益・償却および不良債権処理に要した費用等を加減したものです。

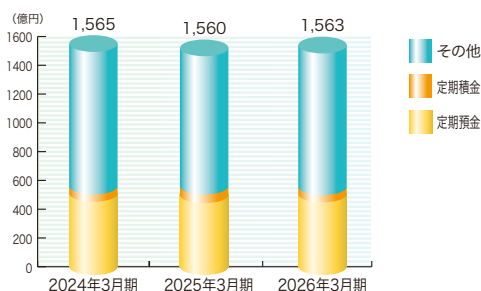


当期純利益

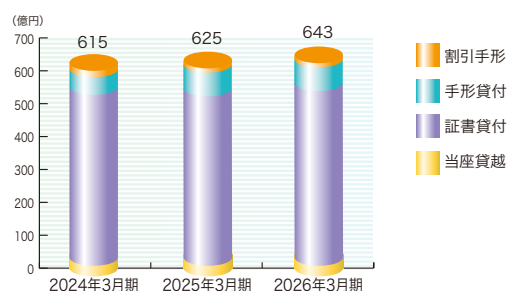
経常利益に特別損益および税金等を加減した最終的な利益です。



■ 預金残高の推移



■ 貸出金残高の推移

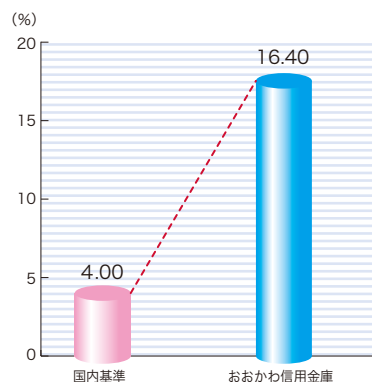


自己資本比率について

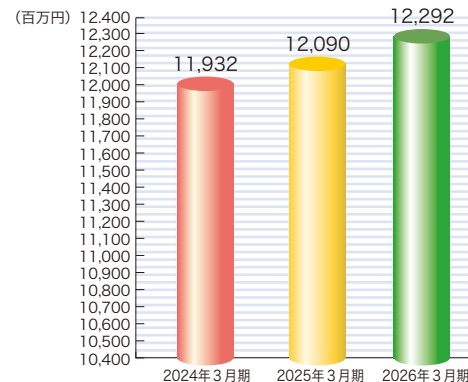
自己資本比率は、金融機関の健全性を示す重要な指標で、リスクアセット（総資産のうち、万が一の場合に貸倒れの可能性がある資産）に対して、自己資本（出資金・積立金等）がどれくらいあるかを示す指標のことで、この比率が高いほど経営の健全性が高いといえます。当金庫のように国内にのみ支店がある金融機関は、自己資本比率4%以上を維持することが求められています。

当金庫の自己資本比率は、今期も内部留保の積上げを行い、自己資本の充実に努めた結果16.40%となり、高い水準を維持しております。

■ 自己資本比率



■ 自己資本の額の推移



$$\text{自己資本比率} = \frac{12,292 \text{ 百万円 (自己資本の額)}}{71,675 \text{ 百万円 (信用リスク)} + 3,256 \text{ 百万円 (オペレーショナルリスク)}} = 16.40\%$$

【自己資本総額】出資・法定準備金・諸積立金の合計

【信用リスク】取引先の倒産や財務状況の悪化などにより、損失が発生する可能性のある資産の総額

【オペレーショナルリスク】金庫の業務上において不適切な処理等で生じる事象により、損失が発生する可能性のある資産の総額

- ・方針・手続及び評価方法の概要等は、資-28頁をご参照下さい。
- ・上記自己資本比率算出の基礎計数は、資-9～10頁をご参照下さい。

当金庫が対処すべき課題

今後も地域の経済状況は、資源や物価高騰の影響を受け、厳しい経営環境が続くことが予想されます。また、少子高齢化等の人口構造の変化を背景とした取引先企業や人口の減少が続くなかで、当金庫の状況は、他の金融機関との競争激化等により、更に厳しい収益環境になっていくと予想されます。

このような環境の下、これまでの行動指針「スピード」・「スマイル」・「プラスワン」のSSPに加え、スローガンである「サポート」「コミュニティ」「チャレンジ」のSCCによる「常にお客さま・地域を支え」「地域の中で一番の地域金融機関として」「新しい未来へ繋がるために挑戦する」信用金庫を目指していきます。また、地域に根ざした協同組織金融機関として、会員、お客様、そして地域が抱える課題解決に尽力し、幸せづくりと地域社会全体の成長に貢献するとともに、業界総合力を更に発揮し、地域社会に期待され、信頼される金庫を目指してまいります。